



宗谷管内における農作業事故の特徴と対策 ～令和5年度農作業事故報告書から～

毎年、北海道農作業安全運動推進本部のホームページ（<https://agr-anzen.jimdofree.com/>）に農作業事故報告書が掲載されます。ここから令和5年度の宗谷管内における農作業事故の特徴と対策について解説します。

1. 男性で最多を更新

令和5年度の宗谷管内における農作業事故による負傷事故は110件（男性76件、女性34件）発生しています。農業就業者1,000人あたりにすると男性84.2人、女性54.0人と、道内全体に比べて非常に多く、特に男性ではこれまでで最も多く発生しています（図1）。

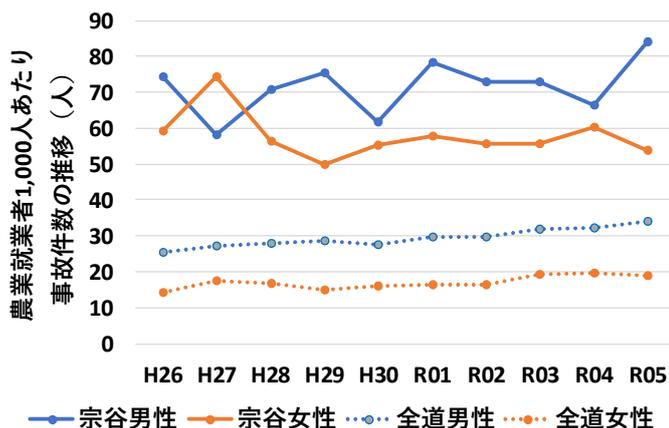


図1. 宗谷管内における農業就業者1,000人あたりの事故件数の推移

2. 男性30代、女性40代が多い

就業者数に対する負傷事故の発生割合で見ると、全道と比較して宗谷は男性では30代、女性では40代が突出して高いことが特徴的です。30～40代は体力があり、機械の操作や牛の扱いに慣れた年代であるため、油断や過信、あせり、面倒くさい、ちょっとのことなどが原因になっているかもしれません（図2）。

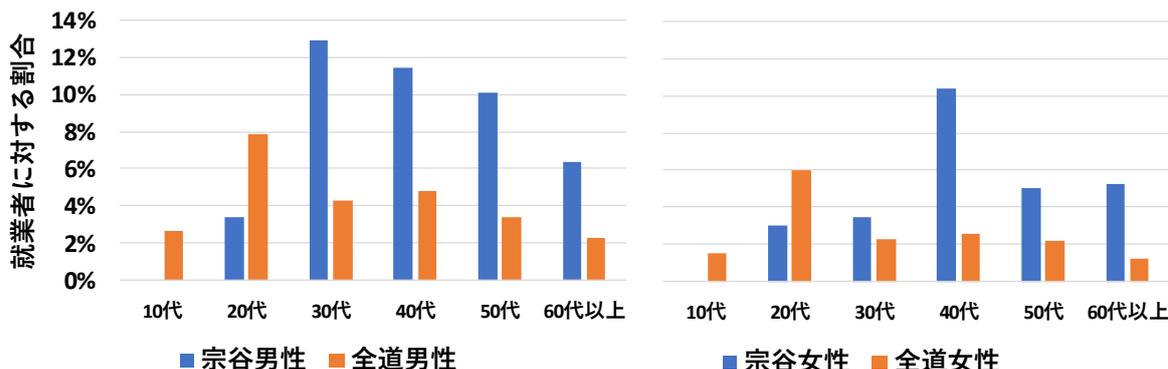


図2. 宗谷管内における年齢別の農業就業者あたりの事故件数の割合

3. 約 6 割は牛による事故

負傷事故 110 件のうち、牛による事故が **66 件 (6 割)** と最も多く、次いでトラクター等の農作業機械が 13 件、高所転落と人の転倒、小農具がそれぞれ 5 件ありました。これらから、牛の移動中や搾乳中など **牛舎内で作業している時** に事故が発生しやすいと考えられます。

4. 男性は胴体、女性は足の打撲

男性では胴体（肩から腹、背中や腰を含む）、女性では足（足の指を含む）が他の地域よりも多く見られました。これは男性では転倒や転落によって腰や尻を強く打つこと、牛に押されて機械や柵との間に胴体が挟まれるなど、女性では搾乳中に牛が急に動いて足の指を踏まれるなどが関連していると考えられます（図 3）。これらから、宗谷管内では比較的早く、狭いつなぎ牛舎が多いことと関連していると考えられます。

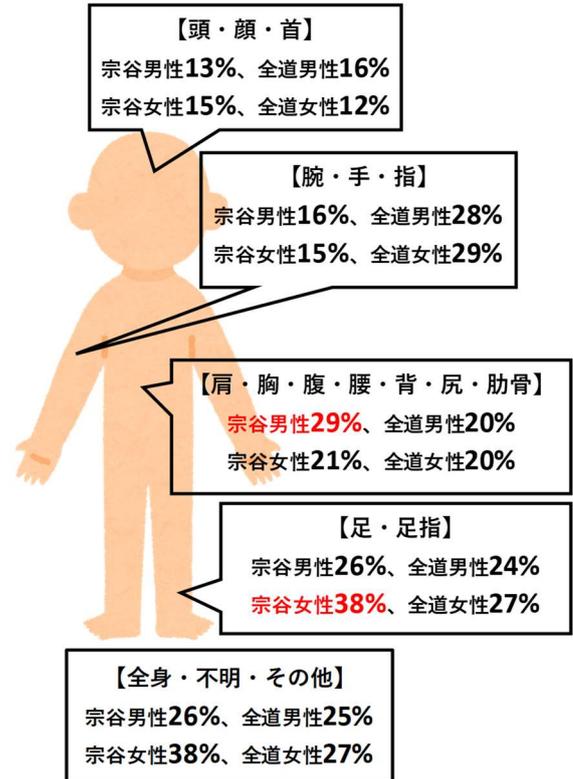


図 3. 宗谷管内における負傷事故の部位別割合（全体を 100%）

5. 対策

1) 牛舎内の危険箇所の把握と改善

牛舎内における牛による事故は牛舎環境（つまずきやすかった、滑りやすかった、狭くて逃げられなかった、柵や道具が壊れていたなど）が大きく関連しています。そのため、家族・従業員間で牛舎内の**危険箇所を把握**（つまずいた・滑った・挟まれたことがある場所など）し、危険箇所の改善を行いましょう。また、牛舎内の**整理整頓**や壊れた**道具や柵の修理**、暗い場所は**電灯を追加**して明るくすることなど、事故を抑える改善を実施しましょう。

2) 機械の操作マニュアルと作業圃場の確認

「初めて」「変更」「久しぶり」は重大事故が発生しやすい 3 つの状況を指します。特に 3 つの状況の場合は、作業前に**機械の点検と操作マニュアルを再確認**するとともに、**圃場の下見**を行って傾斜や凸凹、ぬかるみなどを確認することが不可欠です。特に、機械の操作や牛の扱いに慣れた年代において、作業中の機械のトラブルなどが発生したときに「いつものこと」「ちょっとのこと」だと思って、狭い場所や地盤の悪い場所での作業中に機械が突然動き出して挟まれたり、下敷きになる死亡事故が発生しています。そのため、機械に異常を感じた際は、**点検を行う前に必ずエンジンを停止し、安全な場所かどうかを確認した後に作業**することを心がけましょう。

3) 危険な牛の情報共有と保護具の装着

搾乳時や移動時に**危険な牛に目印**を付ける、繫留している牛の上に**目立つ看板**を取り付けるなど、だれでも危険な牛を把握できるようにするとともに、**危険な牛の移動時は複数で実施**することを検討しましょう。また、家族や従業員全員でヘルメット、安全長靴やプロテクターなどの**安全保護具の着用**や**事故発生時の対応方法**（緊急連絡方法、機械の停止方法、救護方法など）について話し合いましょう。

油断大敵、作業慣れ！